

令和4年度富山市大山歴史民俗資料館運営協議会議事概要

1. 日 時 令和4年8月25日（木） 午前10時から11時30分まで
2. 場 所 大山歴史民俗資料館 研修室
3. 出席者 委 員：久保委員、梅沢委員、山森委員、谷岡委員
事務局：島崎館長、真田職員、松森職員、寺崎職員
4. 傍聴者 なし
5. 議 題
 - (1) 大山歴史民俗資料館の運営について
 - ①事業概要について
 - ②観覧者数の推移について
 - ③入館者アンケート集計結果
 - (2) 大山歴史民俗資料館の今後の方向性について
6. 主な質疑・意見等
 - (1) 事業概要について
 - (委 員) 令和3年度の企画展で、常設展示している「大山地域のパノラマ模型」を効果的に活用している。
 - (委 員) 地域の人から「山の写真展に出品している」という声を聞いており、冬季で観覧者は少ないが、いい企画だと思う。
 - (委 員) 令和4年度の大山の「ちょっと昔」展でも展示している民具等の収蔵品は大山全域から収集しているのか。
 - (事務局) 地元の人からの提供は多いが、収集範囲を小見地区に限定はしていない。月岡地域の方からも、古いミシンや秤などを提供していただいた。
 - (委 員) 収蔵品の整理はたいへんだが、大山の歴史民俗資料館なので、大山全域から歴史的資料や民具等を収集するのがよい。

- (委員) 上滝小学校の校長先生から、資料館で研修をしてよかったと聞いている。子供たちが自分の住んでいる地域の魅力を自分たちで実感することが大切である。小見小学校は資料館に近いが、大山地区の他の小学校も、この資料館での学びに可能性がある。
- (委員) 中学生で有峰ダムを知っている生徒は少ない。有峰ダムは貯蔵水量や発電量が黒部ダムより多い。小学生や中学生に有峰のことや大山の歴史を知ってほしい。水に関しては、富山市全域の命を守る水なので、多くの人々に学んでほしい。
- (委員) 水力発電所が建設されたのは、飛越大地震によって水害が頻繁に起こるようになったからである。防災教育の面から飛越大地震の展示を充実させてほしい。また、県営発電所を建設するために県営鉄道が整備されるなど、地震、発電所、鉄道はつながりがあるので、トータルに考えてほしい。
- (委員) 常願寺川の災害の長い歴史について、子供たちの知識は乏しい。今年のように異常な気象状況の中で、災害の歴史について考えることは大切である。
- (委員) 今後、常願寺川で昭和44年のような水害が起こる可能性はあるが、富山市で水害が少ないのはダムのおかげである。
- (委員) 昭和44年の水害を知らない世代が多くなってきている。過去の問題ではなく、防災教育として資料館で取り上げる歴史かもしれない。
- (事務局) 大山の「ちょっと昔」展で「広報おおやま」から当時の水害の記事を紹介したが、水害のことを知らない人もいた。

(2) 観覧者数の推移及び入館者アンケート集計結果

- (委員) 入館者の推移について、平成21年は映画「劔岳 点の記」があり、宇治長次郎などの企画展に4千人を超える来館者があったように、イベントがあれば入館者は増えるが、足を運んでもらうにはこの資料館は遠い。特に歴史に興味のある高齢者の方々には厳しい面がある。
- (委員) 大山地区であれば、コミュニティバスがあり、資料館に寄ってから亀谷温泉を利用することができる。
- (委員) アンケートの「他の博物館の連携」について、立山博物館やカルデラ博物館との連携は大事なことであり、よい意見だと思う。

- (委員) かつての県政バスのような企画で、この資料館で治水や発電の話聞き、有峰ダムと立山カルデラを見学し、常西合口用水と結び付ければとても魅力のあるコースとなる。その時の拠点をこの資料館にすればよい。
- (事務局) 崩壊地から新庄の赤門までの全域を見ればとても勉強になる。本宮には砂防堰堤もあり、総合的に学べると思う。
- (委員) 10月に薬師岳を特集した番組が放送される。有峰や薬師岳が注目される可能性があるので、それに関する展示に力を入れるとよい。
- (委員) 小学校3年生で昔の生活について学習する。教科書は簡単な説明で終わっているのですが、富山市では呉羽の民俗資料館を見学する学校が多い。水の学習では流杉の浄水場を見学するので、そこから上流をたどる学習も考えられる。発電の学習では発電の仕組みに重点が置かれている。富山市の多くの学校が立山青少年自然の家を利用しているが、雨天時の活動メニューで悩むことがあるので、大山の資料館で、「昔の生活」や「治水と発電」について学べることを情報発信するとよい。
- (委員) 大山には隠れた魅力があり、古道に関心が高まっている。
- (事務局) 鎌倉街道と呼ばれる古道について、川沿いの道は文献に残っているが、新たに尾根沿いに古道の痕跡が見つかり、現在、ルートを確認する調査が行われている。
- (委員) 有峰観光や薬師岳登山の帰りに立ち寄ってもらえるように看板を設置するとよい。
- (事務局) 有峰文化村の行事で、有峰での活動の帰りに資料館を見学する企画があり、年間で5団体ほどの来館がある。
- (委員) 市の博物館ガイドブックなどに、資料館の場所だけでなく、展示の詳細が掲載されればよい。
- (委員) アンケートに「丁寧な説明があつてよかった」という声があるので、定期的に展示の解説会を行うのも有効である。

(3) 資料館の今後の方向性

- (事務局) 公共施設アクションプランにおいて利用者の状況を踏まえ、冬季休館を検

討するよう指示されてから数年が経過している。その間、思うような成果は上げられず、コロナの影響もあって厳しい状況になっている。一方では、来年4月に供用開始される複合施設に資料館の展示の一部を移設することは決まっている。状況やタイミングを総合的に判断すると、来年度から冬季休館を実施せざるを得ないと市は考えている。資料館を取り巻く環境がどんどん変化する中で対応、努力してきた結果なのでご理解いただきたい。今後は複合施設の展示スペースを有効活用して、この資料館そのものをPRできる展示になるよう取り組んでいきたい。

(委員) 冬季休館の期間はいつからいつまでか。

(事務局) 1月から3月にするか、12月から3月にするか、積雪のことも関係してくるので、まだ確定していない。

(委員) 休館することで、展示物の管理などの問題はないのか。

(委員) 職員はどうなるのか。

(事務局) 収蔵品の管理や職員をどうするかなどの課題は当初から言われていることであり、今、並行して協議している。

(委員) 冬季休館することで、4月からの開館、展示に影響がないのであれば、入館者数を考えた時に冬季休館はやむを得ないと思う。

(委員) 休館の期間が展示内容などを見直す機会になる。北陸電力に協力してもらったり、大山歴史民俗研究会の皆さんを巻き込んだりしながら考えていくのがよい。